くすりと健康のはなし

薬包紙

第86回

一般社団法人岐阜県薬剤師会
副会長
谷澤　克弥

全身に効果のある貼付薬

貼付薬(貼り薬)というと、湿布や膏薬などを思い浮かべる人が多いでしょう。これらは貼付した部分の痛みや炎症を抑える薬です。今日は、このような体の一部ではなく全身に効果のある貼付薬のお話です。

全身に効果のある貼付薬の登場は少し前のことで、1980年代に心臓の血管を広げて狭心症を予防する貼付薬ができました。その後、喘息の予防薬、更年期障害治療用のホルモン剤、がんの痛み止め、禁煙補助薬、認知症治療薬など様々な病気治療の貼付薬が開発され、最近では花粉症などアレルギー性鼻炎の薬もできました。これらはいずれも、肩・胸・腰など決められた部位に貼ると、有効成分が皮膚から毛細血管に吸収された後、全身に行き渡って効果が現れます。そのため、どの部位(手掌・足裏など皮膚の厚い部分を除く)に貼っても効果は大差ありません。使い方は薬により異なりますが、1日1回、2日に1回など、決められた間隔で貼り替えるだけです。

貼付薬は内服薬と較べてメリットもデメリットもあります。メリットとして、まず効果が食事に影響されにくい点が挙げられます。内服薬は食前・食間・食後など飲む時間が食事に制約され、食事内容によって効果が変動する薬もありますが、貼付薬は貼り替えの間隔を守れば安定した効果が得られます。また高齢者や認知症など薬が飲みにくい患者さんでも、家族や介護者が貼り替えるだけで大丈夫です。内服薬を嫌う患者さんも、貼付薬であればスムーズに受け入れられるかもしれません。

一方、デメリットとしては貼付薬の接着成分による皮膚のアレルギーが起きる可能性があること、一部の貼付薬はMRI検査の前に剥がす必要があること等があります。詳しくは薬剤師にお尋ねください。

このように、貼付薬は使う患者さんと場面を選べば大変便利な薬です。これからも新しい効果の貼付薬が開発されるでしょう。

なお、本日紹介した貼付薬は一部を除いて、医師の処方箋がなければ購入できないことを申し添えます。